



コスモス

NO.32

校訓：支え合い 学び合い たくましく
学校教育目標

「ふるさとを愛し 志をもって
チャレンジする人を育てる」

校内持久走記録会

今回の持久走記録会や当日に向けての取組で、特によかったなあと感じていることは、前日までの練習に取り組む子どもたちの姿でした。練習可能な時間帯は次の5つでした。

1 体育の時間 2 登校～7時50分までの時間

3 水曜日8：10～8：25の「なかよし（運動）」の時間

4 2・3校時の間の15分休みの時間 5 昼休みの時間

1：教科の体育には、学年の発達段階に応じて「動きを持続する能力を高めるための運動」という領域があります。また、体育の授業のめあては、「体力が続く限り、がんばって速く走る」ではなく、「動きを持続する能力を高める」

（高学年）です。「何のために走るのか？」「どのように走るのか？」を明確にして取り組みます。ここを間違うと、速い子は「うれしい！」、そうではない子は「くるしいだけ。いやだ。」となってしまうことが多いです。

2：朝の準備をした後、走っていた子もいました。3：全校生で走りました。

4：「できるだけ走りましょう」と呼びかけ、この時間に走る子が大変多くなり、走っている表情や動きがやる気に満ちている子がたくさんいました。

5：給食後でもありますし、全くの自由なのですが、かなり多くの子が走っていました。その理由として、走った周を塗っていくチャレンジカードと、「学年みんなで○周走ろう」という目標の存在があったと思います。自分が走った足跡を見る化し、学年目標を決めて走った周を見る化したことによって、盛り上がりをもたらす学年も多いと思います。持久走ブームになっていました。

当日は、「1位になることを目指して走った子」「自己新記録を目指して走った子」「最後まで完走することを目指して走った子」「自分のペースを守ろうと考えて走った子」など、一人一人違ったと思いますがそれでいいのです。自分なりの目標があればいいのです。むしろ、それが大事だと思うのです。

その結果、1位や自分の望む順位でゴールできた子もいるでしょうし、望み通りにはならなかった子もいるでしょう。自己ベストを出すことができた子もいるでしょうし、できなかった子もいるでしょう。大きな喜びを感じた子もいるでしょうし、悔しさを味わった子もいるでしょう。ただ、走っている子どもたちの姿を見ていて、「嫌だ。」と思いながら走っている子はないのではないかと思いました。そして、「自分なりに、ひたむきに走ることが、何よりもすばらしい。」と強く思いました。

大きな怪我はなく終えることができましたが、低学年では、スタート直後に転んでしまった子もいました。でも、すぐに立ち上がって走り始めました。たくましいと感じました。高学年では、走る前から足の痛みを抱えながらも、すばらしい走りを見せた子もいたようです。痛みがある時には走らないのが原則ですし、無理をしそうるのはよくありませんが、痛みをも上回る強い思いがその子にはあったのでしょうか。

すばらしい校内持久走記録会が終わりました。どの子もが、すばらしい走りを見せてくれました。ありがとうございました。

昨年度からコースを運動場内の土の部分にしました。理由の1つ目は、足への負担の軽減、2つ目は、距離によって低中高学年ごとに3つのコースの設定のしやすさ、また、転んだ時に土の方が怪我を減らせるという面もあります。

子どもたちにとってはプラス要素の多い変更だったのですが、応援に来られた保護者の皆さんにとっては、これまで応援していた位置からはコースが遠くなっていました。そこで、今回はフェンスの門を開けて、斜めの芝生の部分に入ってきたことをご案内したところ、みなさん入っていただき、近い所から応援していただきました。子どもたちのすぐそばで、そして、お家やお仕事場から応援を送っていただき、ありがとうございました。

